

リスクマネジメント

基本的な考え方

保土谷化学グループに損害を与える違法行為、品質不良、天災、感染症、情報漏洩その他のリスクについて、損害を最小化するために保土谷化学グループとしてのリスク管理体制を整備しております。

また、企業価値を維持、増大し、企業の社会的責任を果たし、グループの持続的発展を図るため、全役職員がリスク認識を向上させ、全員参加によりリスクマネジメントを推進する取り組みを行っております。

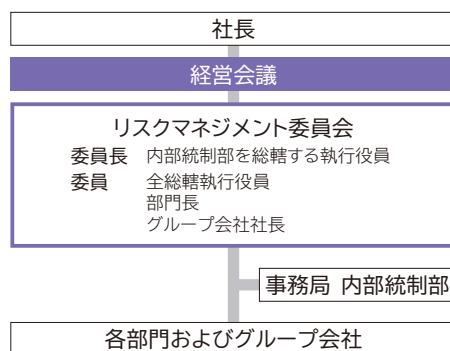
リスクマネジメント委員会

保土谷化学グループは、「リスクマネジメント委員会規程」に基づき、リスクマネジメント委員会を設置しております。

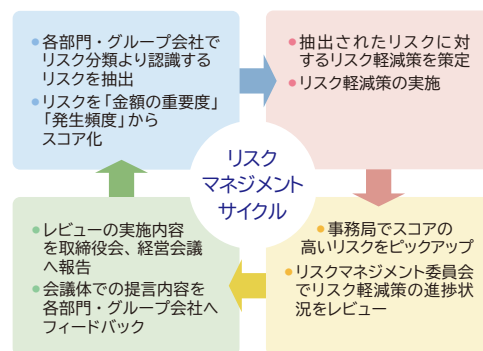
同委員会を定期的に開催し、保土谷化学グループ全体として、リスク認識を深めた上で、リスク軽減策を策定し、対応状況の進捗確認を実施するとともに、「危機管理規程」に基づき損害を最小化する取り組みを行っております。

委員会での討議内容は、取締役会および経営会議に付議・報告しております。

リスクマネジメントの体制図



リスク評価手順



2026年度の全体的なリスク認識

2026年度のリスクマネジメント委員会では、全体的なリスクとして以下を認識しております。

2026年度の リスク認識

1. エネルギー・物流の「地政学的分断」リスク
 - イラン戦争→ホルムズ海峡封鎖リスクの高まり→原油・天然ガス価格の急騰、中東航路の回避によるリードタイムの長期化、物流コストの増大
 - 製造原価の押し上げ、物流遅延による納期未履行、サプライチェーン遮断
2. サプライチェーンの「フレンド・ショアリング」への強制的再編
 - 自由貿易体制が機能不全→経済安全保障が経営の優先事項へ転換
 - 米中対立に加え中東リスクを背景とした、「効率性 (Just-in-Time)」から「強靱性 (Just-in-Case)」へ移行しており、特定国 (中国や不安定な中東周辺) への依存脱却を狙う設備投資の増大
 - 米国等による輸出規制・制裁への適合コスト
3. 「粘着質」なインフレと金利変動リスク
 - エネルギー価格再高騰が、世界インフレを再び刺激
 - 「エネルギー価格上昇×円安」のダブルパンチによる輸入インフレ、日米の金利政策の不透明感による資金調達コスト上昇、賃上げ圧力による固定費増

2025年度の討議内容

2025年度に行われたリスクマネジメント委員会での討議内容は、左図のリスクマネジメントサイクルに基づき主に販売リスク・製造リスク・購買調達リスク等について議論を行いました。

情報セキュリティ

保土谷化学グループは、会社情報を機密として管理するとともに、情報セキュリティを確保することは、事業活動の基本であり、社会的責務であると認識しております。

「情報セキュリティの方針」を策定し、本方針には、情報の適切な入手・利用・開示・管理・保護の取り組みやセキュリティ対策を明記し、不正競争防止法、インサイダー取引規制等の関連法規の遵守も定めております。

また、全役職員を対象に情報セキュリティ意識の向上を目的とした教育を実施しております。